

平成 23 年度第 3 回みんなで支える森林づくり南信州地域会議

1 日 時:平成 24 年 3 月 14 日(水)10:00 ~ 16:30

2 場 所:現地(根羽村)、根羽村森林組合

3 出席者:出席委員名は下記のとおり

大蔵 実 (元森林づくり指針専門会議委員、伊那谷の森で家を作る会代表)

沢柳 俊之 (地域ぐるみ環境 ISO 研究会 事務局)

高田 修 (南信州広域連合 事務局長)

寺岡 義治 (森林環境インストラクター 講師)

鳥山 雅代 (週刊いいだ)

村松千代美 (林業家、元南信州林業研究会長)

矢澤由美子 (長野県地球温暖化防止活動推進員)

山田 庄治 (下伊那郡町村会 事務局長)

4 会議次第:

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 会議事項

1) 長野県森林づくり県民税活用事業実施状況について

2) 森林税を活用した根羽村の取組みについて

3) 長野県森林づくり県民税活用事業次年度計画について

4) 意見交換

(4) 閉会

5 議事録

(下伊那地方事務所長 あいさつ)

- ・ 森林税については、平成 20 年度から平成 24 年度の 5 年間の事業になっており、平成 25 年度以降について県全体で議論が始まっています。来年度には平成 25 年度以降の税の在り方を決めなければならないため、税の方向性について本日しっかり議論をしていただきたい。

(根羽村長 あいさつ)

- ・ 根羽村は 92%が林野、その内の約 73%が人工林ということになっており、面積でいうと約 6000ha が人工林となっています。明治時代からひのきを熱心に植栽し、村民に村有の分収林・貸付林という形でそれぞれ 5.5ha ずつ貸し与えたことで、全村民が森林所有者、全員が組合員、よって村民イコール組合員となっており、林業を中心となった村づくりに取り組みやすい環境にあります。

- ・ 根羽村は林業を大変昔から熱心に行ってきた、国に土地を貸し、そこで木を植え、50年経ったら伐採してそれを製材するといういわゆる公有林野等官行造林法が大正9年に施行されて、大正11年から植栽を始めて昭和30年代から伐採が始まりました。当時の村の財政で一番多い時は、35%が材の売り上げ収入で賄っていましたが、オイルショックや木材の自由化以降木材の値段が下がってきてしまいました。根羽村でも一生懸命先代から木を植えて間伐してきた訳ですが、やはり平成の時代になって今までの林業では厳しくなり、先代の小木曾村長が中心になってもう一度林業を事業として復活させるべく、トータル林業に至ったというわけです。
- ・ 新しい組織を立ち上げて、最後に木材を使っていただくお客様の情報を山元まで共有し、山づくりと一緒に作っていく、そんなトータル林業を構築できたことは、林業が生業として復活できたと自負している所であります。
- ・ 今後については、昨年整備をさせていただいたモルダ一等のJAS認定を今年取得することで、愛知県等の県外でも根羽村産の木材が使える仕組みを構築していきたいと思っています。
- ・ 森林税が、平成20年から実施されて里山整備事業、特に根羽村では矢作川の最上流部ということで、上下流の交流事業に積極的に活用させて頂いています。ただし、里山の整備は未だ十分ではない状況なので、そういった部分を森林税事業でカバーして頂きたい。また、ニホンジカ等による獣害が下伊那管内でも深刻になっているため、是非獣害対策にも森林税を広く使えるようお願いできればと思っています。

会議事項

(座長)

- ・ 本日の現地視察について何か御意見がありましたら、お願いいたします。

(委員)

- ・ 午前中に視察した森林造成事業の現場に森林税はどの程度使われているのか。

(事務局)

- ・ 午前中に視察した森林造成事業に森林税は使用していない。午前中の現場は、搬出間伐をしているが、税事業では搬出間伐を対象にしていない。

(座長)

- ・ 木育推進事業で作成した根羽小学校の体育館用木製ひな壇に森林税を活用したことが分かるようなワッペンを貼ったらどうか。

(事務局)

- ・ ワッペンは無いが、ロゴマーク等による明示を検討したい。

(座長)

- ・ 昨年も里山整備事業を看板でアピールをした方が良いのではないかという話があったので、それも含めて検討してほしい。

(委員)

- ・ 製材施設の補助率は。

(根羽村長)

- ・ 村が事業主体となっており、50%が補助金。残りの部分は村が負担しています。

(委員)

- ・ 根羽スギ提供事業の発想はどこから出たのか。

(根羽村長)

- ・ 川上から川下までの様々な関係者の意見を伺うなかでアイデアが生まれた。提供者には、実際に根羽村まで足を運んでもらって村長の面接を受けてもらう。

(座長)

- ・ 私も何度か利用させてもらったが、50本の柱の提供を受ける為に根羽村に足を運ぶのはとても良いことだと思う。山林や製材工場を実際に見ることで、ただ柱の提供を受けるだけでなく、地域の山に対する関心や林業への関心が高まると思う。

(委員)

- ・ 根羽村のように林業が熱心な地域は他にはないが、村民の山に対する関心は高いのか。

(根羽村長)

- ・ 自分で実際に植栽した人達は、非常に関心が高い。ただし、今の世代は山林を5ha持っていたとしてもそれが生活の糧にならないのが現実であり、昔ほどは高くない。補助金をいただきながら間伐を行い、ある程度お金が入ってくれば関心も高くなるのではと考えています。これからは、企業や団体、その中でもとりわけ住民レベルで交流を行い、住民が山村に対して興味を持ってもらえるようになることが大事だと思っています。

(事務局)

会議事項(1)長野県森林づくり県民税活用事業実施状況について事務局より説明

- ・ みんなで支える里山整備事業の平成23年度実績は680haで県全体の約1割を占めている。平成22年度に比べれば27haの減になっている。
- ・ 高度間伐技術者集団育成事業は根羽村森林組合で実施していたが、今年度で終了。

(委員)

- ・ 基本的なところだが、県民税活用事業は、地域プランを策定して予算付けを依頼するものなのか。それとも、県である程度予算配分するものなのか説明してほしい。

(事務局)

- ・ 概ね森林税の7割がみんなで支える里山整備事業として間伐事業で使用している。各地域の森林面積などにより地域の目標が設定されていて、それに対して地域の要望をとりまとめて実施している。

(委員)

- ・ 地域から要望をもらっているのですか。

(事務局)

- ・ そうです。森林づくり推進支援金については森林税の約2割が使用されています。各市町村の森林面積や人口等に応じて配分させていただき、市町村が希望する事業を実施してもらっています。

(座長)

- ・ 本日視察した箇所以外で、根羽村の森林税活用事業について説明してほしい。

(根羽村振興課長)

会議事項(2)森林税を活用した根羽村の取組について根羽村より説明

- ・ 森林づくり推進支援金で矢作川の上下流域の住民との協働による森林づくりを実施しています。具体的には、トヨタの関連会社アイシングループと村内で夏と秋に企業の家族の皆さんに根羽村に来て頂いて根羽村で森林整備をして頂いております。あと、間伐材の利用として、遊歩道の整備を行っています。今年度は、ニホンジカによる農林業被害が深刻になるなかで、シカの生態系、またそれを活用した地域づくりということで信州大学の竹田先生に御講演を頂いた。

(委員)

- ・ 根羽村ではニホンジカの被害はどうか。特に今年度は、地域会議で大鹿村のシカ被害などを視察してきたが、特に林業被害がどのような状況かお聞きしたい。

(根羽村長)

- ・ シカが増えてきたのはここ7、8年。それまでは、シカを根羽で見たことなかったが、爆発的に増えてきている。長野県内にも10万頭のシカが生息していて、その内年間3万5千頭を駆除していく計画で、根羽村でも年間100頭前後を駆除しているが現実的にはもっと生息していると思われる。あと、被害状況としては、下草の食害はみられるが、場所によっては剥皮害も発生している。ただし、集中的に発生しているわけではない。被害が深刻化しないうちに、森林税等も使用しながら対応していくことが重要でないかと思う。

(委員)

- ・ 被害状況の調査はお金がかかるので、森林組合作業員や村民の情報を基に目撃・痕跡マップを作成してみてもどうか。

(根羽村長)

- ・ 先日の竹田先生の講演で、シカ行動調査用の発信器は1個約40万円もするとのことだった。ただ、シカの行動把握は重要なので、そこまで費用をかけなくても現地に入っている方や山の中の集落に住んでいる方の情報を収集していく必要があると感じている。

(座長)

- ・ 昼食で食べたネバーランドのシカはネバーランドでさばっているのか。

(根羽村長)

- ・ 根羽のシカは可能な限りネバーランドに持ちこんでいる。食べるのを前提に鉄砲ではなく、くくりわなで捕獲し、ネバーランドに持ちこんで衛生的に管理している。根羽村内で約170頭のシカが捕獲されるが、その9割が持ち込まれている。ただし、食用として使えるのはシカ1頭につき2割程度。

(座長)

- ・ 根羽の森林税の活用を見ていると、他市町村と違って本来の森林税の使い方に近いと感じる。下流域との交流など非常に良い取り組みだと思うが、それらについてのアイデアや予算、補助金の確保については村や森林組合で話し合われて、県に要望しているのか。経緯を教えていただきたい。

(根羽村振興課長)

- ・ アイシングループとの交流のなかで子供が大勢くるので、そのなかでどのような活動がで

きるのか村と企業でアイデアを出し合っ、それが森林税の事業の中でどこまでできるのか検討している。いずれにしても都会の子ども達が森に入って、森の恵みを実感してもらえれば、将来的に家を建てる時に木を使ってもらえるのではないかと思う。

(座長)

- ・ 根羽村として来年1年間森林税を活用する予定だが、今まで活用してきて使い勝手はどうか。こうしてほしいという要望はあるか。

(根羽村長)

- ・ ソフト事業に関しては非常にありがたくこれからも是非継続してやらせてほしい。あと、森林税の間伐事業を根羽村ではほとんど使ってこなかった。理由は、根羽村では道まで材を搬出出来てしまうため、搬出間伐が補助対象にならない森林税が使えなかったからです。ただ、今後は国の補助体制が変わってきてしまうため、県民税事業も活用しながら間伐を実施していきたいと考えています。あと、何らかの形で森林税を獣害対策に利用させてほしい。

(座長)

- ・ 次年度の森林税活用事業計画について説明してほしい。

(事務局)

会議事項(3)長野県森林づくり県民税活用事業次年度計画について事務局より説明

- ・ まだ、はっきりとは決まっていないが、里山集約化事業61ha、木育推進事業2件の要望が挙がってきている。

(座長)

- ・ 平成24年度の計画概要を説明していただいたが、今後の課題も含めて森林税の使い道について委員の皆様からご意見をいただきたい。

(委員)

- ・ 今日、現地の視察を行ったが、国の制度が変わったとしてもやはり切り捨て間伐も実施していかなければならないと思うので、画一的な対応でなく地域の実情に合わせてお金が使えるよう国に要望して行ってほしい。また、獣害対策にもお金が使えるようになれば良いと思う。

(委員)

- ・ 山の木を切って、製材して、それから家を建てるというトータル林業が確立しているのが実感できた。私が住んでいる伊賀良の伊賀良小学校に学有林があるが、小学生は学有林に通っておらずもったいないと感じていた。飯田市付近に学有林を持っている学校はまだあると思う。せっかく学有林があるのにそれを活用できないと悲しいので、是非学有林の活用という事も木育事業のなかでも学校にお願いしてもらえればと思っています。

(委員)

- ・ 道端の山を見ると本当にきれいになったと感じる。植栽後20年経過してもまだまだ細い木もあり、そういった森林については切り捨ても必要なため切り捨て間伐も補助対象として行ってほしい。ニホンジカによる食害についても制度と動物愛護の精神との兼ね合いで難しいかもしれないが、農家の生産に不具合が生じないように考えて行ってほしい。

(委員)

- ・ 今日視察を実施して、林業が村の生業として成り立っているのが肌で感じる事ができた。森林を地域の財産としてとらえるのか否かということです。いぶん取組みの仕方、使い方が変わるものだと実感した。

(委員)

- ・ 間伐材の利用の観点から、山によっては切り捨ててもやむを得ない場所もあるが、通し柱がとれるような木が切り捨てられているような山も下伊那管内にかなり見受けられる。利用可能な間伐材については間伐材利用を出来るだけ積極的に進められるような方策をお願いしたい。

(委員)

- ・ 今日皆さんの話を伺ってちょうど1か月前に横浜に行って横浜市役所の方のお話を聞いた時を思い出した。話の中で横浜の水は山梨から流れてくるから、山梨の森林を守らなければならないということが出てきた。根羽村の話の中でも根羽村の森林は根羽村だけのものではなくて矢作川下流の住民のためにも重要であると認識して活動していることに感心した。

(座長)

- ・ 我々は3年間いろんな所を見てきたが、根羽村は森林資源を経済活動または住民の雇用にまで結びつけて、非常に成功している事例だと思います。頭の中ではわかっているけれども実際にはそういったことができるかできないかという差がどこにあるのかと考えると、やはり村長さん以下村の人達の協力の意識というのが一番大きいと思います。トータル林業という名前を付けてそこに向かって進んでいるのが一番の成長の秘訣ではないかなと思っています。また我々が材を買う場合ですが、我々の意見を聞きながら逆に提案をしていただいたり、それから一緒にやっていく、どちらがリーダーシップをとるのではなくてお互いに使う側と作る側が同体になって同じレベルで進めていくのが良いのではないかなと思っています。今後、根羽村の様な市町村がたくさんこの長野県内に出てくるのが長野県を豊かにする一番の秘訣かと思っていますので、我々が森林税を通じて違う視点から森林というものを見ると、やはり森林税というのは継続していただきたいと思う気持ちが大きくなりました。今日一日根羽村の方々のお世話になりながら、この地域の林業をもう一度見つめ直すことができたことは非常に有意義だったと思います。